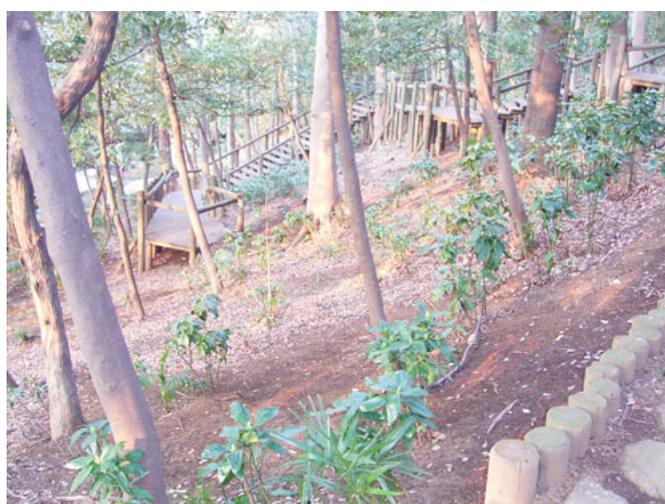


VI-1-vii. 各地点の概況

■成増四丁目緑地

表VI-24-(1) 成増四丁目緑地

	科数	種数
トンボ類	1	4
カマキリ類	0	0
バッタ類	1	1
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	15
コウチュウ類	1	1
セミ類	1	4
合計	10	25



成増四丁目緑地

表VI-24-(1) に示したように成増四丁目緑地では10科25種の昆虫類が確認された。地点内はほぼ全域が斜面樹林であることから、樹林性の種が多く確認されており、ツクツクボウシ、ヒグラシなどのセミ類やヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲなどのチョウ類が確認された。また、コノシメトンボやノシメトンボなどの林縁で見られるトンボ類も確認された。

■成増五丁目公園

表VI-24-(2) 成増五丁目公園

	科数	種数
トンボ類	1	1
カマキリ類	0	0
バッタ類	1	1
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	11
コウチュウ類	1	1
セミ類	1	4
合計	10	18



成増五丁目公園

表VI-24-(2) に示したように成増五丁目公園では 10 科 18 種の昆虫類が確認された。成増四丁目緑地と同様な環境であり、地点内はほぼ全域が斜面樹林である。

そのため、樹林性、林縁性の種が多く確認されており、ミンミンゼミ、ヒグラシなどのセミ類やコムスジ、ヒカゲチョウなどのチョウ類が確認された。また、都内では多摩地方なども含め、近年減少している大型美麗種であるヤマトタマムシも確認された。

■赤塚城址

表VI-24-(3) 赤塚城址

	科数	種数
トンボ類	5	14
カマキリ類	1	3
バッタ類	11	23
ナナフシ類	1	1
チョウ類	9	39
コウチュウ類	5	11
セミ類	1	5
合計	33	96



赤塚城址(バッタ広場周辺)

表VI-24-(3) に示したように赤塚城址では 33 科 96 種の昆虫類が確認された。地点内には自然度の高い斜面樹林、草地、林縁環境といった広範な環境を有し、30 調査地点中最多の 96 種が確認された。

確認された種はニイニゼミやツクツクボウシなどのセミ類のほか、ノコギリクワガタやカブトムシなどのコウチュウ類、ムラサキシジミ、ヒカゲチョウなどのチョウ類といった樹林性の種が多く確認されたが、バッタ広場やその周辺にある草地および林縁では、クビキリギスやクルマバッタモドキなどの草地性の種のほか、コノシメトンボ、ナツアカネなどの未成熟期には林縁部に多くみられるトンボ類も確認された。さらに、赤塚城址では、多くの重要種が確認されており、ホソミオツネントンボやオニヤンマなどのトンボ類のほか、コロギスやショウリョウバッタモドキなどのバッタ類、アカシジミやヒオドシチョウなどのチョウ類といった板橋区内では非常に希少な種も確認されている。また、ヒグラシやヤマトタマムシといった生息環境として自然度が高く、面積の広い樹林が必要である種も比較的多数の個体が確認されており、板橋区内においては昆虫類にとっての最も重要な地域のひとつとなっている。

■赤塚溜池公園

表VI-24-(4) 赤塚溜池公園

	科数	種数
トンボ類	3	10
カマキリ類	1	1
バッタ類	4	4
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	14
コウチュウ類	1	1
セミ類	1	4
合計	16	34



赤塚溜池公園(ビオトープ池周辺)

表VI-24-(4) に示したように赤塚溜池公園では 16 科 34 種の昆虫類が確認された。赤塚城址から続く斜面樹林の下部にあたり、その林縁部とビオトープ池、人工的な釣り池などが含まれる。

ビオトープ池ではクロスジギンヤンマ、ショウジョウトンボ、リスアカネなどをはじめ、板橋区昆虫類等実態調査においては初記録となるネキトンボといったトンボ類が確認された。植栽樹などのみられる園内ではアブラゼミ、ツクツクボウシなどのセミ類が多く確認されたほか、オンブバッタ、クルマバッタモドキなどのバッタ類、ツマキチョウやヤマトシジミなどのチョウ類といった開放的な環境を好む種が確認された。また、釣り池周辺ではシオカラトンボやコシアキトンボなどのトンボ類が確認された。

■赤塚不動の滝

表VI-24-(5) 赤塚不動の滝

	科数	種数
トンボ類	1	3
カマキリ類	1	2
バッタ類	7	10
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	18
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	4
合計	16	37



赤塚不動の滝

表VI-24-(5) に示したように赤塚不動の滝では 16 科 37 種の昆虫類が確認された。斜面樹林および、その上部と下部に平坦地(公園として造成された裸地)を含む地点である。

斜面樹林やそれに続く林縁環境がみられるため、ハラビロカマキリやオオカマキリなどの林縁部を好むカマキリ類が確認されたほか、ダイミョウセセリ、ムラサキシジミ、ヒカゲチョウなどの林縁性・樹林性のチョウ類が確認された。また、造成された裸地では、トノサマバッタやイボバッタなどのバッタ類のほか、ヤマトシジミやヒメアカタテハなどのチョウ類といった開放的な環境を好む種が確認された。本地点は小規模な地点であるが、赤塚城址に隣接しているためか、林内でヒグラシが確認されている。

■赤塚植物園

表VI-24-(6) 赤塚植物園

	科数	種数
トンボ類	3	8
カマキリ類	1	2
バッタ類	2	2
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	20
コウチュウ類	1	2
セミ類	1	4
合計	14	38



赤塚植物園

表VI-24-(6) に示したように赤塚植物園では14科38種の昆虫類が確認された。地点内は斜面(樹林)地に、自生に近い状態の野草園などが作られている。また、小規模ながら浮葉植物などが生育する人工的な池もみられる。

池では水生植物がみられるためか、比較的多くのトンボ類が確認されており、クロイトトンボやクロスジギンヤンマをはじめ、ショウジョウトンボ、オオシオカラトンボ、コシアキトンボなど8種が確認された。また、園内の樹林部ではダイミョウセセリ、ムラサキシジミ、サトキマダラヒカゲなどの林縁性・樹林性のチョウ類のほか、植栽された花卉ではキアゲハ、クロアゲハ、ナミアゲハといったアゲハチョウ類などの訪花性の種も確認された。

■赤塚公園大門地区

表VI-24-(7) 赤塚公園大門地区

	科数	種数
トンボ類	2	5
カマキリ類	0	0
バッタ類	7	10
ナナフシ類	1	1
チョウ類	6	22
コウチュウ類	1	1
セミ類	1	5
合 計	18	44



赤塚公園大門地区

表VI-24-(7) に示したように赤塚公園大門地区では 18 科 44 種の昆虫類が確認された。比較的広い斜面樹林を含む地点で、斜面下部は高木層に上部を覆われ、薄暗く、一部には斜面からの滲み出し水がみられ、湿っている。一方、斜面上部には林縁環境が広くみられ、一部には明るく開放的な場所もみられる。

ツクツクボウシやニイニイゼミなどのセミ類が多く確認されたほか、カラスアゲハ、ミズイロオナガシジミ、ヒカゲチョウなどの樹林性のチョウ類も多く確認された。また、本地点では個体数の減少しつつあるセスジツユムシやハヤシノウマオイといった林縁性のバッタ類が確認されたほか、ヒグラシやヤマトタマムシといった希少種が赤塚城址と同様に確認された。

■赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区

表VI-24-(8) 赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区

	科数	種数
トンボ類	1	8
カマキリ類	1	2
バッタ類	6	10
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	24
コウチュウ類	2	2
セミ類	1	6
合 計	17	52



赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区

表VI-24-(8) に示したように赤塚公園徳丸ヶ丘緑地地区では17科52種の昆虫類が確認された。大門地区同様、比較的広い斜面樹林を含む地点で、斜面下部は住宅地に面していることから管理されている部分もみられ、一部は斜面からのしみ出し水がみられ、池となっている。一方、斜面上部には樹林に沿って平坦な園地がみられ、林縁環境が広がっており、明るい開放的な場所もみられる。

トンボ類が比較的多く確認されており、コノシメトンボ、マイコアカネ、リスアカネなど樹林内や林縁部でみられる種を中心に8種が確認された。また、アオマツムシ、ウスグモスズ、カネタタキといった樹上性のバッタ類やアブラゼミ、ツクツクボウシ、ニイニイゼミなどのセミ類、ミズイロオナガシジミ、ムラサキシジミ、サトキマダラヒカゲなどのチョウ類といった樹林性の種が多く確認された。なお、本地点においてもヒグラシやヤマトタマムシといった樹林性の希少種が確認された。

■赤塚公園辻山地区

表VI-24-(9) 赤塚公園辻山地区

	科数	種数
トンボ類	1	5
カマキリ類	1	1
バッタ類	4	5
ナナフシ類	0	0
チョウ類	7	26
コウチュウ類	1	2
セミ類	1	5
合 計	15	44



赤塚公園辻山地区

表VI-24-(9) に示したように赤塚公園辻山地区では 15 科 44 種の昆虫類が確認された。比較的広い斜面樹林を含む地点であるが、大門地区や徳丸ヶ丘緑地地区に比べると斜面樹林の範囲はやや狭い。斜面下部は住宅地に面していることから擁壁になっている。また、斜面上部は林縁環境が広がっているが、自然度の低い人工的な公園として整備されている。

アオマツムシやカネタタキといった樹上性のバッタ類が確認されたほか、カラスアゲハ、コムラサキ、コムスジなどの樹林性のチョウ類が多く確認された。なお、本地点では板橋区内では希種であるコジャノメも確認された。

■昆虫公園

表VI-24-(10) 昆虫公園

	科数	種数
トンボ類	1	3
カマキリ類	1	2
バッタ類	2	2
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	15
コウチュウ類	1	1
セミ類	1	2
合計	12	25



昆虫公園

表VI-24-(10) に示したように昆虫公園では12科25種の昆虫類が確認された。小規模な公園で、植え込みなど人工的に整備された場所も含むが、敷地のほとんどは残存してきた斜面樹林である。近隣には同様の緑地はみられず、孤立した環境である。

ハラビロカマキリやオオカマキリなどの林縁環境を好むカマキリ類が確認されたほか、ダイミョウセセリ、コムスジ、サトキマダラヒカゲなどの林縁性・樹林性のチョウ類が確認された。また、板橋区内では個体数のごく少ない樹林性の種であるミズイロオナガシジミも確認された。ミズイロオナガシジミはゼフィルス類と呼ばれる、出現時期の限られたチョウ類である。

■ 西徳第二公園

表VI-24-(11) 西徳第二公園

	科数	種数
トンボ類	1	2
カマキリ類	0	0
バッタ類	0	0
ナナフシ類	1	1
チョウ類	6	17
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	4
合 計	9	24



西徳第二公園

表VI-24-(11) に示したように西徳第二公園では9科24種の昆虫類が確認された。斜面樹林を含む地点で、斜面の上部や下部には平坦に整備された人工的な公園部分もみられる。

ダイミョウセセリやコムスジ、サトキマダラヒカゲなどのチョウ類のほか、ナナフシやツクツクボウシといった樹林性の種が確認された。また、開放的な場所もみられることから、キアゲハやモンシロチョウ、ヤマトシジミなどのそうした環境を好むチョウ類も確認された。なお、本地点は比較的明るい斜面樹林がみられるが、薄暗いやや湿った樹林を好むヒグラシも確認された。

■ 西台公園

表VI-24-(12) 西台公園

	科数	種数
トンボ類	1	5
カマキリ類	0	0
バッタ類	1	1
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	12
コウチュウ類	2	3
セミ類	1	5
合 計	11	26



西台公園

表VI-24-(12) に示したように西台公園では11科26種の昆虫類が確認された。斜面樹林を含む地点で、開放的な部分は少なく、大部分は樹林下である。

コノシメトンボ、ナツアカネ、アキアカネなどのアカネ類が林縁部でみられたほか、ツクツクボウシ、ニイニイゼミなどのセミ類も多く確認された。また、アオオサムシやカナブンなどのコウチュウ類やカラスアゲハ、コムスジ、サトキマダラヒカゲなどのチョウ類といった樹林性の種も確認された。斜面上部の林縁にはクヌギの高木がまとまって生育しており、ゼフィルス類であるミズイロオナガシジミが複数確認されたが、ミズイロオナガシジミは板橋区内においてはこの地点より東の地域では確認されていない。また、ヒグラシもほぼ同様で、古くから広い斜面樹林が社寺林として残されてきた、常盤台地域の安養院を除くと本地点は赤塚地域から連続的につながっていた生息地の東端になっている。

■ 日暮台公園

表VI-24-(13) 日暮台公園

	科数	種数
トンボ類	1	1
カマキリ類	0	0
バッタ類	3	4
ナナフシ類	0	0
チョウ類	5	11
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	3
合 計	10	19



日暮台公園

表VI-24-(13) に示したように日暮台公園では 10 科 19 種の昆虫類が確認された。小規模な地点で、斜面上部には植え込みや植栽されたエノキなどの高木のみられる平坦な場所もあるが大部分は斜面樹林下である。

ツクツクボウシやミンミンゼミなどのセミ類のほか、ゴマダラチョウ、コムスジ、ヒカゲチョウなどの樹林性のチョウ類が確認された。また、林縁の藪や樹上などにみられるバッタ類であるヤブキリが本地点でのみ確認された。

■前野公園

表VI-24-(14) 前野公園

	科数	種数
トンボ類	1	4
カマキリ類	0	0
バッタ類	2	2
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	10
コウチュウ類	1	1
セミ類	1	3
合計	11	20



前野公園

表VI-24-(14)に示したように前野公園では11科20種の昆虫類が確認された。人工的な公園であるが、植栽された樹木が広範囲にみられ、比較的緑は多い。

アブラゼミ、ミンミンゼミなどのセミ類やイチモンジセセリ、ナミアゲハ、ヤマトシジミなどのチョウ類といった市街地やその周辺でも普通にみられる種が多く確認されたほか、生息に適した安定した水辺がみられないものの、ショウジョウトンボ、オオシオカラトンボ、コシアキトンボなどのトンボ類も確認された。

■ 志村城山公園

表VI-24-(15) 志村城山公園

	科数	種数
トンボ類	1	1
カマキリ類	0	0
バッタ類	2	2
ナナフシ類	1	1
チョウ類	5	9
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	3
合 計	10	16



志村城山公園

表VI-24-(15)に示したように志村城山公園では10科16種の昆虫類が確認された。地点の多くが斜面樹林であるが、斜面下端をはじめ、斜面の所々に土留めがされ、斜面樹林の連続性がやや損なわれている。斜面下部には水量が僅かながら湧水起源の水辺がみられる。

水辺があるものの、特徴的な種は少なくオオシオカラトンボ1種であった。一方、斜面樹林では特徴的な種もみられ、ウスグモスズやカネタタキなどの樹上性のバッタ類やコムスジ、サトキマダラヒカゲなどのチョウ類、ナナフシといった樹林性の種が確認された。

■小豆沢公園

表VI-24-(16) 小豆沢公園

	科数	種数
トンボ類	2	6
カマキリ類	0	0
バッタ類	4	4
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	15
コウチュウ類	1	1
セミ類	1	4
合 計	14	30



小豆沢公園

表VI-24-(16)に示したように小豆沢公園では14科30種の昆虫類が確認された。地点内の面積は広く、斜面樹林をはじめ、グラウンドや遊具などのみられる園地、斜面樹林伐採後の草地、人工的な池など比較的多様な環境がみられる。

斜面の下部にある人工的な池では、クロスジギンヤンマやオオシオカラトンボ、コシアキトンボなどのトンボ類が確認された。一方、斜面樹林ではウスグモスズやカネタタキなどの樹上性のバッタ類のほか、ツクツクボウシやニイニイゼミなどのセミ類、ゴマダラチョウやコミスジなどのチョウ類といった樹林性の種も確認された。また、林縁環境が広くみられ、植栽された花卉もみられることから、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、カラスアゲハなどのアゲハチョウ類が多くみられたことも特徴的である。

■見次公園

表VI-24-(17) 見次公園

	科数	種数
トンボ類	1	7
カマキリ類	0	0
バッタ類	0	0
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	10
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	5
合計	8	22



見次公園

表VI-24-(17)に示したように見次公園では8科22種の昆虫類が確認された。公園の中央に大きな人工的な池があり、池の東側や北側には植栽された部分が多いものの、斜面樹林が残されている。

中央の人工池ではコフキトンボ、コシアキトンボなどの比較的富栄養化の進んだ場所でも生息可能なトンボ類が確認された。また、林縁部ではコノシメトンボ、アキアカネ、リスアカネといったアカネ類も確認されており、トンボ類は比較的多くの種がみられた。その他の種としては、アブラゼミやニイニイゼミなどのセミ類が多く確認されたほか、ジャコウアゲハ、ルリシジミ、ヒメジャノメといったチョウ類が確認された。

■徳丸ヶ原公園

表VI-24-(18) 徳丸ヶ原公園

	科数	種数
トンボ類	1	4
カマキリ類	1	1
バッタ類	0	0
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	11
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	3
合 計	9	19



徳丸ヶ原公園

表VI-24-(18)に示したように徳丸ヶ原公園では9科19種の昆虫類が確認された。公園内の樹木はほとんど植栽樹のみの自然度の低い公園であるが、人工的な流れとビオトープ池などの水域がみられる。なお、流れは周年みられず、冬季などは流れていない。また、ビオトープ池も水は少なく、季節によってはほぼ干上がったような状態になっている。

トンボ類はシオカラトンボ、ウスバキトンボなどのごく普通にみられる種のほか、板橋区内では比較的個体数の少ないと思われるリスアカネが確認された。その他の種では、アブラゼミやミンミンゼミなどのセミ類のほか、イチモンジセセリ、キチョウ、モンシロチョウなどのチョウ類といった市街地周辺でも普通にみられる種が確認された。なお、本地点では温暖化により分布を拡げているといわれているムラサキツバメの成虫と植栽されたマテバシイにおいて幼虫が確認された。

■荒川河川敷新河岸一～三丁目

表VI-24-(19) 荒川河川敷新河岸一～三丁目

	科数	種数
トンボ類	3	5
カマキリ類	1	1
バッタ類	9	29
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	19
コウチュウ類	2	3
セミ類	1	3
合 計	22	60



荒川河川敷新河岸一～三丁目

表VI-24-(19)に示したように荒川河川敷新河岸一～三丁目では22科60種の昆虫類が確認された。地点内の多くはグラウンドなどの造成裸地であるが、土手や荒川沿いには高茎・低茎の草地もみられる。

板橋区内においては、まとまった草地がみられる数少ない場所である荒川流域の地点であることから、草地性の種を中心に比較的多くの種が確認された。ヒメコオロギ、クマコオロギ、タンボコオロギなどのコオロギ類、キンヒバリ、クサヒバリ、シバズなどのヒバリモドキ類、ウスイロササキリ、クビキリギス、クサキリなどのキリギリス類、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、クルマバッタモドキなどのバッタ類といった草地性のバッタ目の種が数多く確認されており、特徴的な結果となった。チョウ類についても同様で、全国的に個体数が減少しているギンイチモンジセセリのほか、モンキチョウやツバメシジミなどの草地性の種が多く確認された。さらに、本地点ではチョウセンカマキリやコバネヒメギス、ミヤマチャバネセセリといった、他の地点で確認されていない種もみられるなど、全体的に他の地点と異なる特徴的な確認状況となった。

■荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)

表VI-24-(20) 荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)

	科数	種数
トンボ類	3	8
カマキリ類	0	0
バッタ類	10	31
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	19
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	5
合計	20	63



荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)

表VI-24-(20)に示したように荒川河川敷舟渡四丁目(ビオトープ)では20科63種の昆虫類が確認された。地点内には広大なビオトープとして整備された草地や湿地、ワンドを含む河畔林がみられる。

荒川河川敷新河岸一～三丁目に隣接した荒川流域の地点であることから、草地性の種を中心に比較的多くの種が確認された。草地においては前地点と同様の種が確認されたが、ミツカドコオロギ、ヒロバネカントン、コバネササキリ、ホシササキリといった前地点では確認されていない種も確認された。湿地ではアジアイトトンボやアオモンイトトンボなどのイトトンボ類やギンヤンマ、ショジョウトンボなどの開放的な環境を好むトンボ類が確認されたほか、ケラやコバネイナゴなどのバッタ類も確認された。河畔林ではクマゼミ、ニイニイゼミなどのセミ類が多くみられたほか、ジャコウアゲハ、ヒメウラナミジャノメなどのチョウ類や河畔林内に生育しているヤナギ類を食草としていると考えられるコムラサキが確認された。

■荒川河川敷舟渡二・三丁目

表VI-24-(21) 荒川河川敷舟渡二・三丁目

	科数	種数
トンボ類	3	10
カマキリ類	0	0
バッタ類	9	32
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	23
コウチュウ類	1	1
セミ類	1	3
合 計	20	69



荒川河川敷舟渡二・三丁目

表VI-24-(21)に示したように荒川河川敷舟渡二・三丁目では20科69種の昆虫類が確認された。地点内の大部分はグラウンドやゴルフ場などの造成された裸地であるが、荒川沿いの一部に小規模な河畔林やヨシ、オギなどの高茎草地もみられる。

上流側の2地点同様、草地性の種を中心に比較的多くの種が確認された。草地においてはタンボコオロギ、キンヒバリ、カンタンなどのバッタ類やギンイチモンジセセリ、モンキチョウ、ヒメアカタテハなどのチョウ類といった種が確認された。一方、河畔林では面積が狭いながらアオマツムシやウスグモスズ、カネタタキなどの樹上性のバッタ類やコムラサキ、コムスジ、ヒカゲチョウなどのチョウ類といった樹林性の種が特徴的に確認された。なお、本地点では荒川河岸においてミヤマサナエ、ナゴヤサナエといった都内では稀な大型のサナエトンボ類も確認された。

■都立浮間公園

表VI-24-(22) 都立浮間公園

	科数	種数
トンボ類	5	16
カマキリ類	0	0
バッタ類	6	14
ナナフシ類	0	0
チョウ類	7	19
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	4
合計	19	53



都立浮間公園

表VI-24-(22)に示したように都立浮間公園では19科53種の昆虫類が確認された。面積の半分程を浮間ヶ池が占めており、その他の大部分はグラウンド、テニスコートなどの人工的な裸地やサクラなどの植栽地、人工草地などとなっている。しかし、一部には湿地状の環境がみられる水生植物園や人の立入りを制限した樹林である小鳥の森(バードサンクチュアリ)もみられる。

水生植物もみられる広範な水辺である浮間ヶ池を含むことから、トンボ類の確認種数が多く、クロイトトンボ、ギンヤンマ、チョウトンボなど30調査地点中最多の16種が確認された。その中には湖や規模の大きな池沼などの広い開放水面を有する水域にのみ生息するウチワヤンマやオオヤマトンボなどの重要種も含まれる。その他の種としてはツヅレサセコオロギやシバスズ、ショウリョウバッタといったバッタ類やモンキチョウやベニシジミ、ヤマトシジミといったチョウ類などの草地性の種が多くみられたが、ツクツクボウシ、ニイニイゼミなどのセミ類やアオマツムシ、ウスグモスズなどのバッタ類、カラスアゲハやサトキマダラヒカゲなどのチョウ類といった樹林性の種も確認された。

■板橋区立城北公園

表VI-24-(23) 板橋区立城北公園

	科数	種数
トンボ類	1	2
カマキリ類	1	1
バッタ類	1	1
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	8
コウチュウ類	1	1
セミ類	1	3
合 計	11	16



板橋区立城北公園

表VI-24-(23)に示したように板橋区立城北公園では11科16種の昆虫類が確認された。全域が造成された公園でグラウンドなどの人工裸地や舗装された園路などの人工構造物のほか、ツツジ、サクラ、ケヤキなどの植栽といった人工的な緑地がみられる。

確認された種数は少なく、確認された種も多くはアブラゼミ、ミンミンゼミなどのセミ類やアオスジアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミといった市街地周辺でも普通にみられる種であったが、ゴマダラチョウやサトキマダラヒカゲといった樹林周辺でみられる種も確認された。

■ 平和公園

表VI-24-(24) 平和公園

	科数	種数
トンボ類	1	2
カマキリ類	0	0
バッタ類	3	3
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	12
コウチュウ類	1	1
セミ類	1	4
合 計	12	22



平和公園

表VI-24-(24)に示したように平和公園では12科22種の昆虫類が確認された。比較的規模が大きいが全域が造成された公園で、サクラ、クスノキ、ツツジなどの植栽された樹木がみられる。

確認された種はアブラゼミやミンミンゼミなどのセミ類やオンブバッタ、ショウリョウバッタなどのバッタ類、イチモンジセセリやナミアゲハなどのチョウ類といった市街地周辺でも普通にみられる種であったが、面積が広く、植栽された樹木も多くみられるためか、ゴマダラチョウやサトキマダラヒカゲなどの樹林周辺でみられるチョウ類も確認された。また、本地点では林縁などで多くみられる樹上性の大型バッタ類であるサトクダマキモドキも確認された。

■安養院

表VI-24-(25) 安養院

	科数	種数
トンボ類	1	5
カマキリ類	0	0
バッタ類	3	3
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	13
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	5
合計	11	26



安養院

表VI-24-(25)に示したように安養院では11科26種の昆虫類が確認された。比較的広い斜面樹林が社寺林として残されており、常盤台地域にありながら、比較的自然度の高い環境がみられる。

コノシメトンボやナツアカネ、リスアカネといった未成熟期には樹林の周辺で見られるアカネ類が確認されたほか、ツクツクボウシやミンミンゼミなどのセミ類、カラスアゲハやコムスジ、サトキマダラヒカゲといったチョウ類などの樹林性の種が確認された。また、セミ類においてはヒグラシが確認されたほか、1個体のみであったがクマゼミが羽化殻により確認され、同所における発生の可能性が示唆された。なお、本地点におけるヒグラシは板橋区昆虫類等実態調査において最も東の地点での生息確認であり、1990年度、2000年度、本年度と継続している。今後も同地点においてヒグラシが発生し続けることを切に願う。

■都立城北中央公園

表VI-24-(26) 都立城北中央公園

	科数	種数
トンボ類	2	9
カマキリ類	0	0
バッタ類	4	5
ナナフシ類	0	0
チョウ類	7	17
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	4
合計	14	35



都立城北中央公園

表VI-24-(26)に示したように都立城北中央公園では14科35種の昆虫類が確認された。おもにグラウンド、広場などの管理された裸地や舗装された園路、サクラ、ケヤキなどの植栽地、植え込みなどがみられる。人工的な部分も多いが、面積が広く、植栽された樹木の数も多い。また、小規模ながら人工的な池もみられる。

池およびその周辺で確認されたクロスジギンヤンマ、ヤブヤンマ、オオシオカラトンボなどのほか、オープンスペースや植栽地の林縁部などで確認されたシオカラトンボ、ウスバキトンボ、リスアカネなどトンボ類は9種が確認された。また、本地点ではアブラゼミ、ミンミンゼミなどのセミ類が多く確認されたほか、植栽された植物が豊富なためカイチモンジセセリ、ナミアゲハ、ルリシジミなどのチョウ類も17種と比較的多く確認された。

■茂呂山公園

表VI-24-(27) 茂呂山公園

	科数	種数
トンボ類	1	2
カマキリ類	1	1
バッタ類	4	4
ナナフシ類	0	0
チョウ類	6	11
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	3
合 計	13	21



茂呂山公園

表VI-24-(27)に示したように茂呂山公園では13科21種の昆虫類が確認された。斜面樹林を含み、斜面上部には平坦な広場や植栽地がみられる。

おもにオンブバッタ、ナミアゲハ、ヤマトシジミといった市街地周辺でもごく普通にみられる種が確認されるなど、特徴的な種は少なかったがツクツクボウシ、ミンミンゼミなどのセミ類やダイミョウセセリ、コムスジ、サトキマダラヒカゲなどのチョウ類といった樹林周辺でみられる種のほか、重要種であるマイコアカネも確認された。

■氷川神社

表VI-24-(28) 氷川神社

	科数	種数
トンボ類	1	4
カマキリ類	0	0
バッタ類	1	1
ナナフシ類	0	0
チョウ類	5	8
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	3
合計	8	16



氷川神社

表VI-24-(28)に示したように氷川神社では8科16種の昆虫類が確認された。面積は狭いが本殿脇に保護された社叢林を有する。

社叢林の林縁で重要種であるコノシメトンボ、ナツアカネなどのアカネ類が確認されたほか、林内ではアブラゼミやミンミンゼミなどのセミ類が確認された。また、アオスジアゲハやクロアゲハ、ルリシジミといったチョウ類も林縁部や林内を飛翔している個体が確認された。

■大山公園

表VI-24-(29) 大山公園

	科数	種数
トンボ類	1	1
カマキリ類	0	0
バッタ類	1	1
ナナフシ類	0	0
チョウ類	4	6
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	2
合計	7	10



大山公園

表VI-24-(29)に示したように大山公園では7科10種の昆虫類が確認された。規模も小さく、人工的な公園であることから確認種数は少ない。

重要種であるナツアカネを除くと、カネタタキ、アブラゼミ、ナミアゲハ、ヤマトシジミなどの市街地周辺でもごく普通にみられる種が確認された。

■板谷公園

表VI-24-(30) 板谷公園

	科数	種数
トンボ類	1	1
カマキリ類	0	0
バッタ類	1	1
ナナフシ類	0	0
チョウ類	3	4
コウチュウ類	0	0
セミ類	1	4
合 計	6	10



板谷公園

表VI-24-(30)に示したように板谷公園では6科10種の昆虫類が確認された。規模も小さく、人工的な公園であることから確認種数は少ない。

大山公園同様、ナツアカネを除くと、カネタタキ、アブラゼミ、ヤマトシジミといった市街地周辺でもごく普通にみられる種がおもに確認されが、他の板橋地域の地点では確認されていないニイニイゼミが確認された。